

## NJPPP セミナー「東京栄養サミットに向けたコミットメント作成を目指して」アンケート集計結果

### 1. 業種割合：（回答者数・・・27名、回収率:31.8%）

食品製造：11（40.7%）、コンサルタント：3（11.1%）、学術機関：2（7.4%）、政府機関：1（3.7%）、食品小売業：1（3.7%）、NGO/NPO：3（11.1%）、その他：6（22.2%）

### 2. セミナーの感想：

#### 1) 外務省・GAIN・日本企業による講演について

##### ①日本企業の取り組みに関して（評価した理由）

- ・具体的なコミットメントの内容がイメージできる講演だった。（複数者回答）
- ・分科会の活動内容が具体的にわかった。（複数者回答）
- ・自社でも取り組み可能な内容があるのではと感じられた。
- ・7分野の活動が海外からも評価されたので。
- ・他の分科会の動向が確認できたため。

##### ②Global Alliance for Improved Nutrition（GAIN）からの情報提供について（評価した理由）

- ・現在の栄養サミットに向けた世界の動向がわかって良かった。
- ・海外の動向について、またこの活動がどのように海外発信されていくかを知りたかったため。
- ・栄養サミットに向けたGAINのフォーカスを知りたかったので。
- ・ビジネスセクターがどうかかわっているか海外の動向を伺って、このコロナ渦でより深刻になっている問題を認識できたため。
- ・コミットメントの具体例が示されていて良かった。
- ・SUN(Scaling Up Nutrition)が中小企業の参加を強化している点を理解できたため。

##### ③全体の講演内容について（を評価した理由）

- ・今後の方向性が理解できた。
- ・セミナー全体として体系だった内容でした。
- ・栄養サミットやコミットメントの準備状況について、最新の情報を入手することができたため。

#### 2) 質疑応答・意見交換の感想

##### ①質疑応答・意見交換の内容について

- ・日本のコミットメントが日本の強みを活かすという視点で考えられている点をGAINが評価されていたのが印象に残りました。
- ・大変包括的で興味深い内容でした。日本の企業が国際的な栄養不良問題にどう貢献しうるのかについて、議論があると良かったと考えます。
- ・栄養に関しては、貧困や母子の問題がクローズアップされることが多いが、肥満や高齢者に対する栄養の対応についての質疑などもあり、大変参考になった。また加えて、生活習慣病や健康維持・増進に関しても栄養はとても大切なことと思われる。
- ・高齢者へのタンパク質+運動に関する意見交換が興味深かった。
- ・日本独自の取り組みとして「高齢者対応」に対する期待を感じられたのは良かった。
- ・災害時の食が栄養となり地域の食文化を抜きにして考えられてないか気になった。
- ・参加者間での情報量のギャップが大きいように感じました。

## ②進行・運営について

- ・各分科会での質問時間をもう少し取ればよかったと思います。
- ・質疑応答が、もう少し時間があっても良いのでは？時間が不足していたのではないか。
- ・GAIN の方の質疑応答が少し冗長だった印象があります。
- ・オンラインということもあり、活発に意見交換するのは難しかった。
- ・同時通訳であることを演者がもう少し配慮すると良い。
- ・GAIN の方との貴重な意見交換となり有難うございました。
- ・皆さんから知りたかった内容の質問も多く出ていたので役に立ちます。
- ・質疑応答含め、オンライン会議の方法に関して、単純に Microsoft の Teams でミーティングを設定するのではなく、ライブイベント機能を使用することを推奨します。無関係の画面が共有されたり、参加者からのノイズが聞こえる、質問が見にくいといった課題を全て解決できると思います。

### 3. 1) NJPPP に期待する支援内容について：

- ・情報共有（セミナー実施、セミナー資料の共有等）
- ・主要参加企業をハブにして日本企業全体に広く活動内容を情報発信できるようにしてほしい。
- ・資金的支援を行っていただける団体や省庁の情報提供。
- ・栄養に関する国際基準や国際的動向の紹介。
- ・産学官連携、オンラインイベントの開催、コミュニティ醸成
- ・行政などにみられる栄養も含む健康増進活動や Web 等にみられる栄養価等に焦点を当てた調理等にみられる最近の栄養番組等、新旧の栄養改善のためのツールを利用したの支援。
- ・今回のような意見交換の場を設けていただけるのは大変有難いです。今後もセミナーの継続希望。
- ・日本連合として取り組むべき方向性のベクトル合わせありがとうございます。
- ・ビジネスの視点からの日本の発信に期待します。特に、給食サービス関連での取り組みがどうなるかを見ております。
- ・food system のテーマを考えると、日本を代表するインフラ関連企業なども含めて議論が必要なのではないかと思います。今後そういう企業の参加にも期待しています。内容としては、一般の人への食育をテーマにした、おいしさと安全性という分科会があっても良いと思いました。災害時食に関する分科会はユニバーサルなトピックなので是非立ち上げて頂きたいです。
- ・ペンディングしている分科会 6 について、COVID-19 対策ではなく、災害対策とすれば、多くの参加者が増えて良いと思いました。日本は大災害のデパートですし、世界もそのことを知っているでしょうから、打ち手も多いと思います。そこで是非、それに対する災害栄養の分野を取り上げると良いと思いました。
- ・UHC 伊勢サミット保健大臣会合教育大臣会合などを行った世界唯一栄養改善を行い多様な食文化を維持してきた昭和の工夫を。

### 2) 東京栄養サミットのコミットメント作成・発出に際し、現段階での課題：

- ・糖質へのバッシング。栄養に関する知識の方より、食育、栄養教育が課題。
- ・栄養を食文化に落とし込む日本人の多様な食文化。知恵工夫を表現すること。
- ・社として経営 Board レベルのコンセンサスを獲得すること。社内合意。（複数者回答）
- ・会社の一部の人間しか理解していないため社内稟議に時間を要してしまうこと。
- ・自社での方針が定められていないこと。

- ・ より多くの企業の参画
- ・ コロナ禍によるオフライン活動の制限
- ・ 日本企業の取り組みの紹介はあったが、企業だけで各テーマを推進するのは難しい。あらためて学術機関、市民社会にある知見、ノウハウを活用し、また官の関与した上での、マルチセクター連携での取り組みに発展して行って欲しい
- ・ 日本らしさが見えない。
- ・ 食品メーカーではない立場（コンサルタント）での我々のコミットメントの関わり方
- ・ 組織横断的な議論の実施と戦略化、目標の積み上げ
- ・ エビデンスとなるデータとその分析方法
- ・ 外部からどう評価されるか未知であること。
- ・ NGO が分科会に入れない点。ぜひ適切な NGO があれば呼んでほしい。

### 3) 今後の NJPPP ウェビナーで取り上げてほしいテーマ・内容：

- ・ コミットメント発表内容の進捗について具体例をご教示願いたい。日本の取り組みの進捗状況。
- ・ コミットメント策定の途中経過がわかるようなもの。
- ・ 本日の様な内容を適宜アップデートしたウェビナーを開催して欲しい。
- ・ 過去コミットメント事例と評価
- ・ 各分科会が目指しているゴールについて、過去の成功事例を知りたいと思いました。
- ・ 企業ではない団体のコミットメントの具体例
- ・ 前回までのサミットで発出されたコミットメントが、現在どのようにトラッキングされているかを把握できれば幸いです。
- ・ 栄養を通しての業種を超えた事例紹介
- ・ Work force nutrition、NPS、ATNI などの個別セミナー
- ・ GAIN 等との質疑応答
- ・ 海外の企業・機関の取り組み紹介
- ・ 国際基準や国際動向に基づき、日本企業がどのように貢献できるのか議論を行うものを希望します。
- ・ 栄養に関する取組みのアウトプットとその検証方法について学びたい
- ・ 児童民生委員、保母、保護司、食生活改善委員、生活改善委員、社会教育主事、学校医、行政、生産者の連携をどうしていたのか？日本で栄養保健を学ぶ留学生が考える栄養サミット、ホーチミン師範大学が栄養サミットに臨む事、母子手帳から継続した栄養
- ・ 日本の高齢者保健婦栄養士生活改善委員社会教育主事と農業など食糧との知恵。統制経済の際、どうやって栄養所用量を作り出し日本中に食糧をきちんと分配したのか。栄養士保健師の地位を上げるために。
- ・ 持続可能な食料システムや健康な食事
- ・ 食品関連企業以外の方、学術の方も含めた会も良いと思います。国内の社会的なニーズ、事業主のビジネスに沿った内容が目立っており、それはそれで日本の特徴を表していますが、今後は国際的なテーマで、新しい発見につながるようなウェビナーを希望します。